
溺れる欲情
人妻
～若い欲に蜜をこぼして～
1
鶴永いくお
【合冊版】

欲に溺れる人妻
～若い欲に蜜をこぼして～

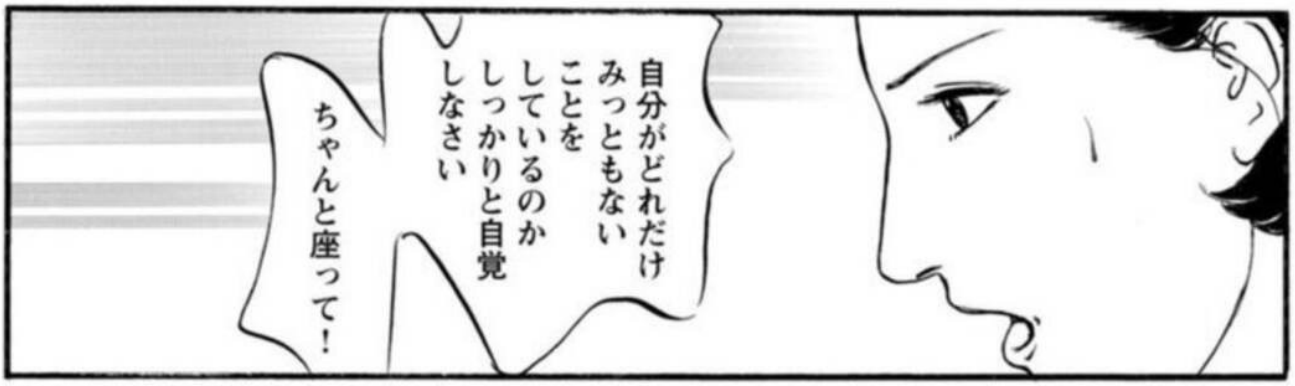
第１話




えっ!?
な…何!?
とっ 突然…

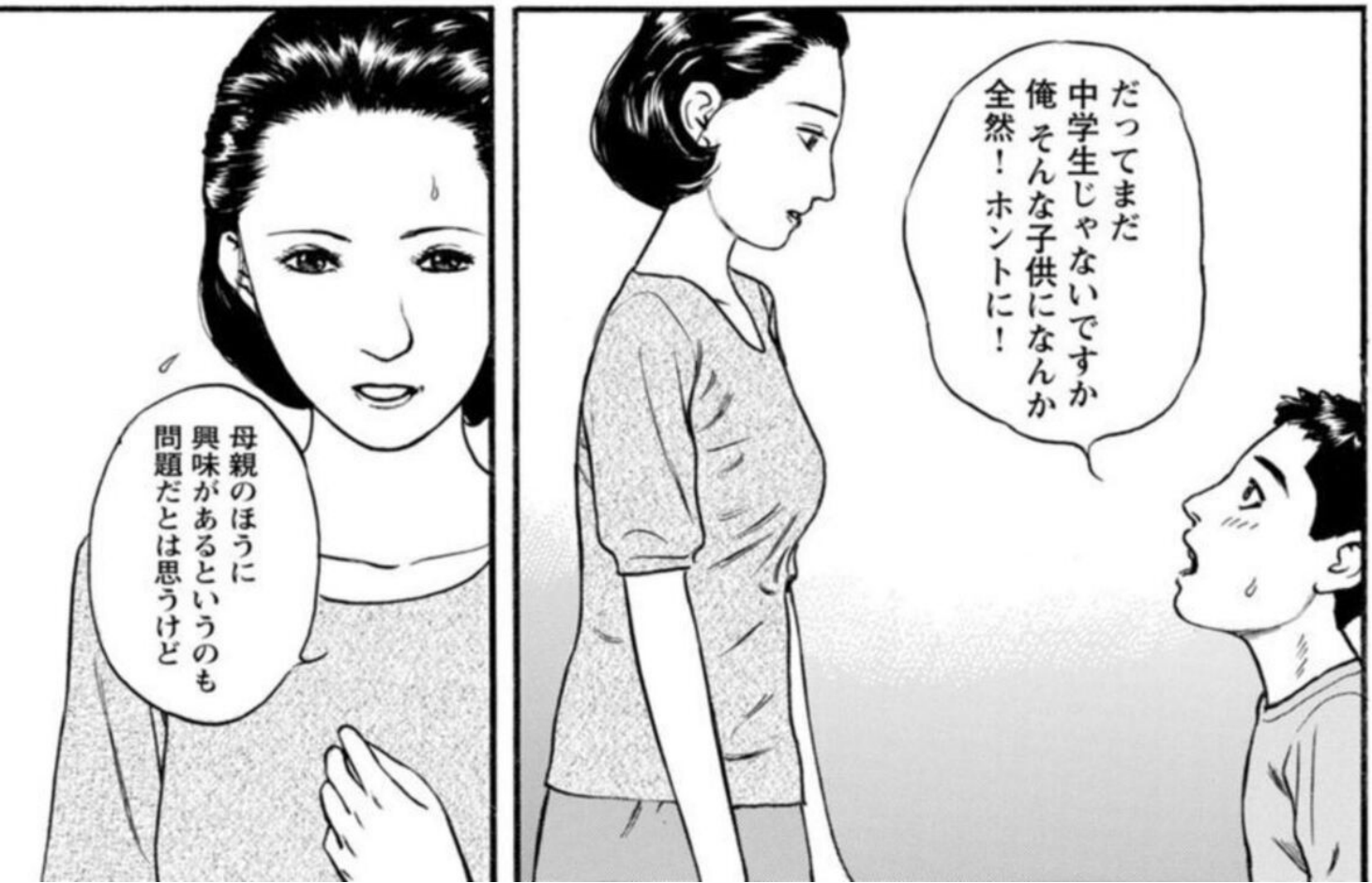

何…じゃないでしょ
なんなの？その左手に握っているものは
こ…これは風で飛んできて
なんで私の下着だけ都合よく風で飛んでくるのよ？
3枚目よ…それ去年から3枚目！


ごっ
ごめんなさい
あっあの俺
パ…パンツはいて
いいですか？
だめよ


自分がどれだけ
みっともない
ことを
しているのか
しっかりと自覚
しなさい
ちゃんと座って！


は…はいっ
聞いておきたいん
だけど 茂男くん


最初から私の下着だと思って盗んだのかしら
それともうちの娘のものを盗むはずが私のものを間違えて盗んでしまったなんてことは…
そっそりゃあおばさんのパンティーと信じて！
一緒に干してあったいちご模様のパンティーなんか目もくれずに…
うちの娘に興味があるというわけではないのね？


だってまだ中学生じゃないですか俺 そんな子供になんか全然！ ホントに！
母親のほうに興味があるというのも問題だとは思うけど


隣近所で
こんな揉め事を
表沙汰にはしたく
ないでしょ
だからこうして
あなたがひとりの時を
見計らって
意見をしにきたのよ


さあ もう
ズボンを
はきなさい

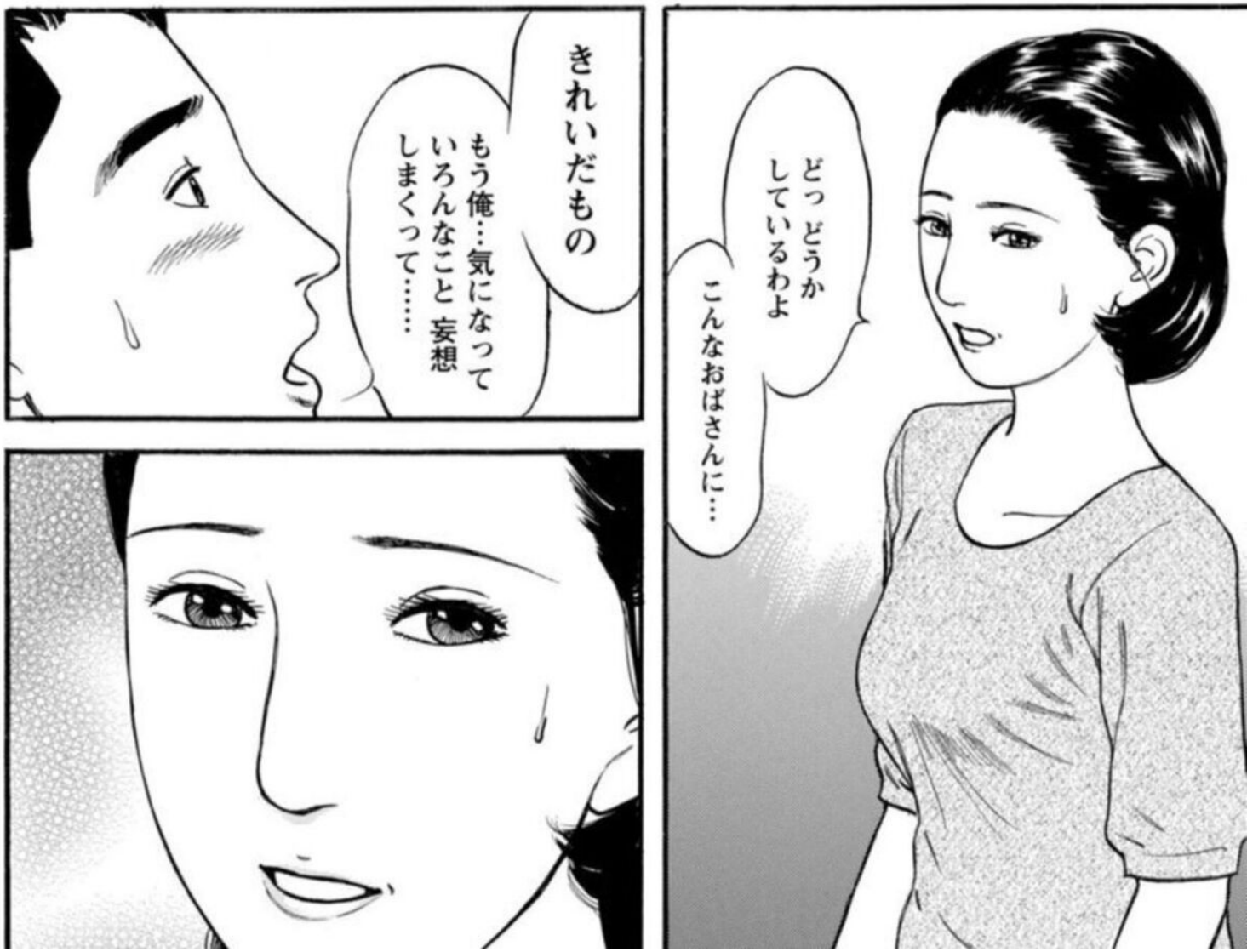

こういう事は
放っておいたら
どんどん深みに
はまって
しまうでしょ
下着なんかでは
満足できなくなって
次はどんなことを
しでかしてしまう
のか……


何をしてるの？


い…いや
なんだかもう…


だってこんな格好で
おばさんのこと
目の前にしてたら…
さっき途中
だったし…
帰るわ
あとは
お好きになさい
それはあげるから
待ってよ
何もしないから
そこにいて…


俺 窓からそっと
おばさんの姿を
見ながら こんな
ことをしてたんだ
何もできないから
せめてパンティーぐらい
ほしいと思って…つい


どっ どうか
しているわよ
こんなおばさんに…
きれいだもの
もう俺…気になって
いろんなこと 妄想
しまくって……


こうしているだけでいいの？
うっうん
はっ
はっ
あっ
はあ


やっぱり…
もの足りないんじゃないの…？


パンティー好きなんでしょ


いっいや…
そりゃその中身のほうが…




ばかね
何よ
中身って…


そういう好色な目で
見られるのは
ばかにされている
みたいで嫌なのよ


知ってるで
しょうけど
私は未亡人だから


あっ


亡くなった主人は
学校の教員
だったのよ
生真面目で
誠実で実直な


ああ
だめよ


んっ


しっ 茂男くん


し…して
いいんだよね
ねえ
おばさん
いっいや
なっ 何も
聞かないで…


はっ
あ


ああ


そんな所を
見ないで…
恥ずかしいわ


夢に見たよ
でも夢の中じゃ
おばさんのここ
真っ白で何も
わからなくって


わからない
ままのほうが
よかったでしょ
そんな所
恥ずかしいだけで…
そっ そんなに見られる
なんて…今まで一度も…


あっ
だっ だめ
ああ…




ああ
いや…
だっ
だめ


はっ
あっ
ズボッ
あっ


今日だけ…
今日だけよ
こんなこと…


あっ
あっ

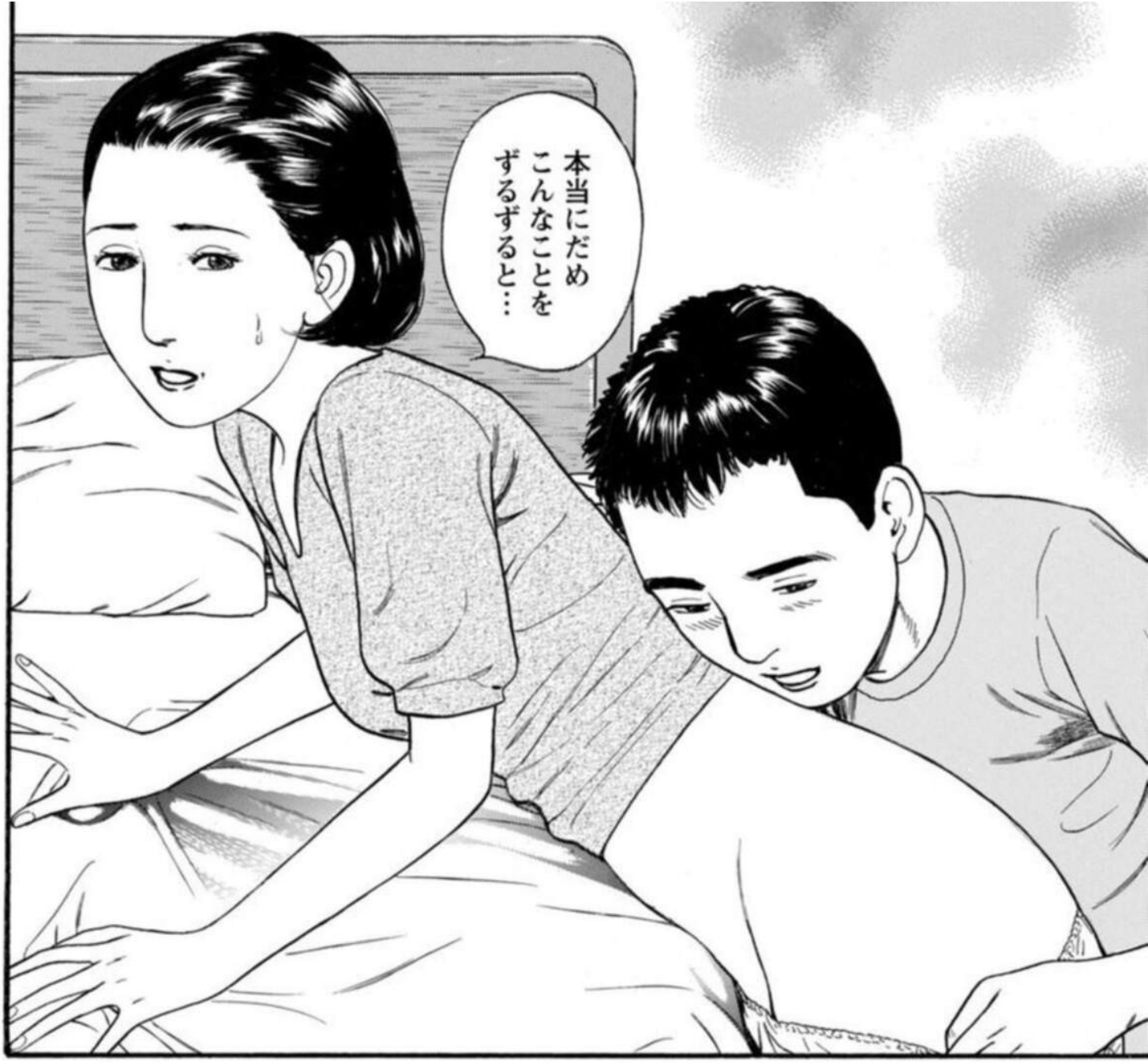

あぁ〜〜


ああ だめよ
茂男くん


したのは
午前中でしょ
午後になって
また…こんな…


おばさん
今日だけって
言ってたじゃない
だから
今日のうちに




本当にだめ
こんなことを
ずるずると…


でも…
今日だけと
言ったんだから
今日だけは…


ああ〜〜〜

欲に溺れる人妻
～若い欲に蜜をこぼして～

第２話




ハタン




あら
ヒデちゃん
おかえりなさい


あれ


来てたの？
時子叔母さん
留守だったから
庭のほうに回って
勝手に
入っちゃった
お母さんは
買い物かしら
母さんなら
明日まで
帰らないよ
聞いてなかったかな
母さんの千葉の実家で
法事があって
父さんと出かけると…
いいのよ
お茶なんか
入れなく
たって…
飲まなくても
カタチ
だけだから
電車で
来たの？
ううん


買い物ついで…
ていうには
ずいぶん遠くまで
歩いてきたんだね
即席
釧路カレー


買い物ついでに
歩いてきたのよ


ヒデちゃんの顔を
見たくなった…て
言ったら 信じて
もらえるかな


時子叔母さんに
顔を見せろって
お願いされたら
いつでも僕のほうから
出向いていくよ


じゃあ他のことを
ヒデちゃんに
お願いしても
いいかな
なに…？


うしろから
抱いて
くれない？


だっ 抱くって？
包むように
ギュッと抱いて
くれたら
うれしいんだけど
こ…こう？
もっと
ギュッと


ありがとう
温かい…
落ち着くわ…


僕なんかじゃ
なんの相談にも
のれないけど
やっぱり何か
嫌なことでも…？


ブラジャー
着けていないん
だね
気持ち
いい…


いいのよ
オッパイしっかり
触ったって


だめ…と
言ったら
とっても
柔らかい
じかに
触れたら
きっと…もっと
許してもらえる
つもりで聞いて
いるんだけど…
はっ
あっ
きれいな
オッパイだね
触っているだけで…
本当…幸せな気分


あっ
はあ


はっ
はっ


あっ
ああ


クチュ
はっ
いやだわ…
湿った音が
はっ
あっ
ああ


ふっ
んっ
んっ
しようか…
ヒデちゃん

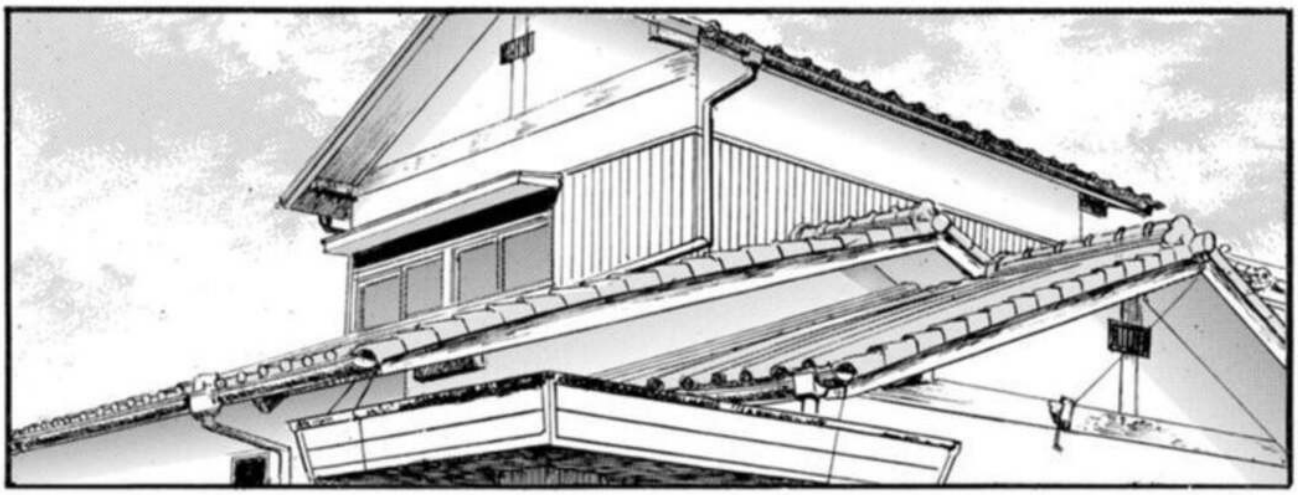

できる…私と？
怖いかしら
叔母さんだものね


ああ
もっ もう…
あっ
ドクン
ああ
と…時子
叔母さん
んっ
ふっ


ご…ごめん
我慢できなかった
すっきり
しちゃった
かしら
あっ
ドサッ

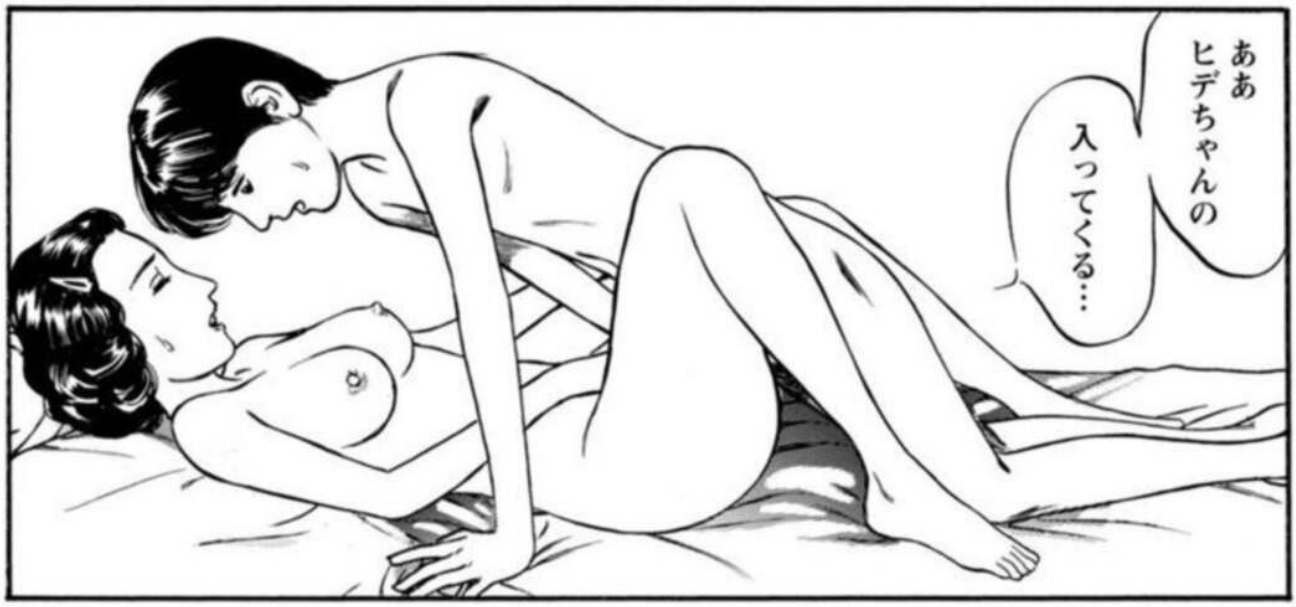

ま…まだ
できるの？
ヒ…ヒデちゃん


もちろんだよ
時子叔母さんに
したいこと
まだまだ
いっぱい…
していいわよ…
しましょう
な…なんでも
はっ
ああ




ふっ
んっ
はっ
あっ


い…
挿入(いれ)て


ああ
ヒデちゃんの
入ってくる…


あっ

あっ
あっ
ああ～～～


と…時子
叔母さんっ
ああ ヒデちゃん
私 もっ もう…
ああ～～～


ごめんね
何が？


ヒデちゃん
引きとめて
くれたのに


しようがないよ
時子叔母さんには
家庭があるん
だから


ちょっと
休もうか…


風が少し
冷たくなって
きたね


さっきみたいに
抱いてくれる？
…ヒデちゃん


ああ
あったかい…


私この頃ずっと
モヤモヤしていてね
理由のよくわからない
不安っていうのかな…


でも
ヒデちゃんの
おかげで
晴ればれとした
ような気分よ…


ああ
ヒデちゃん
こんな所で
無茶をしないで
戻ろうか
家に
ああ…
今日だけじゃ
ないから
また…今度


ヒデちゃんは
私の秘密の
オアシスだから
波風を
たてないように


誰にも
気づかれないように
大切にしないと
失って
しまいたくは
ないのよ




でも 今は
もう少し…

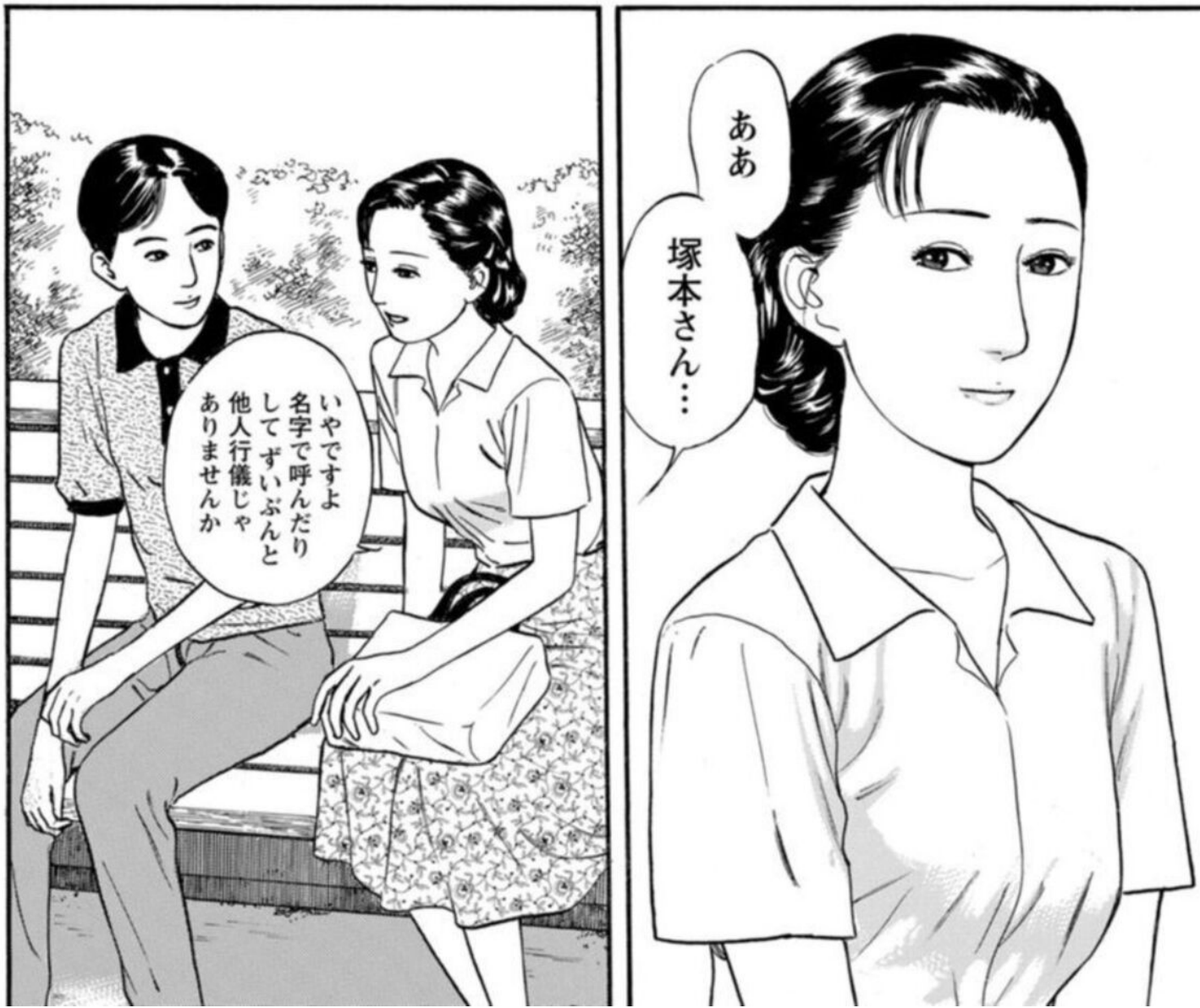

ここで
このまま
抱いていて…

欲に溺れる人妻
～若い欲に蜜をこぼして～

第３話




営バス
病院前
南口行
所行
あっ
康男
ぼっちゃんじゃ
ありませんか


ああ
塚本さん…
いやですよ
名字で呼んだり
してずいぶんと
他人行儀じゃ
ありませんか


それは
そうだよ
もう家(うち)の
お手伝いさんを
しているわけでは
ないんだから


康男
ぽっちゃんは
まだ病院通いを？
もうだいぶ
体調はいいんだ
けどね


医者に
月に一度は様子を
見せにこいと
言われていて…

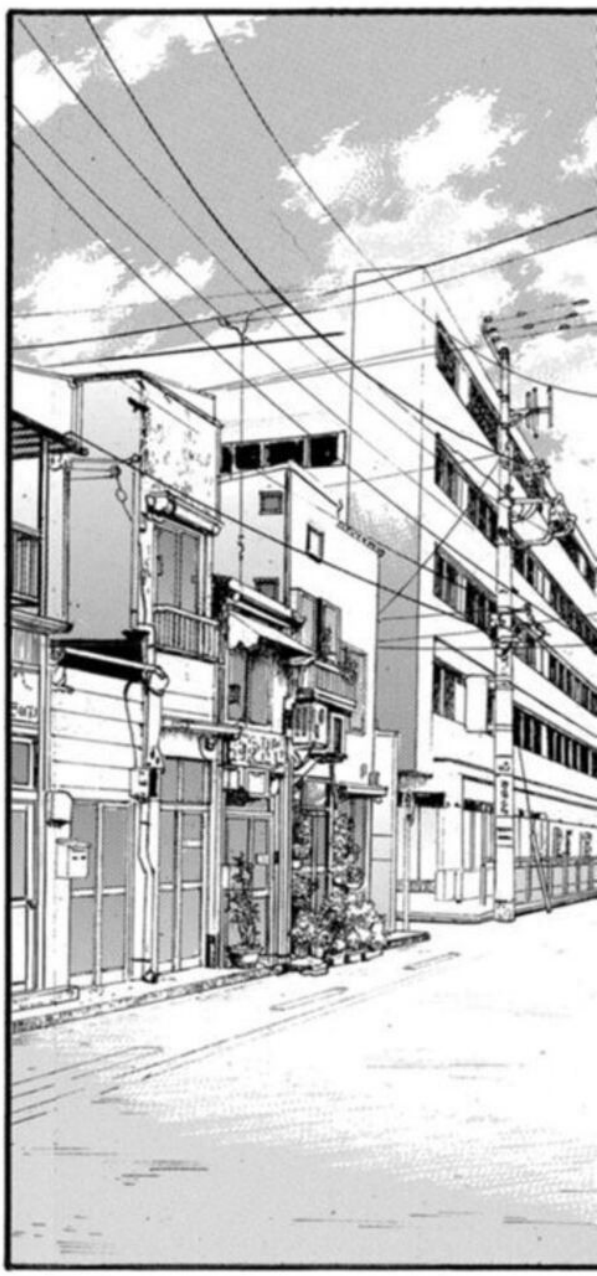

私は知り合いの
年寄りがここに
入院していてその
世話係を頼まれて
いるんです


康男ぽっちゃんが
入院なさったら
いつでもお世話係を
お引き受けしますよ


バスはまだ
来ないみたいだし
少し一緒に
歩かないか


それは
ぜひにと
言いたいけどね…


すまなかったね




なんです
…突然


僕があんな真似をしたばっかりに塚本さんのことを家から追い出すはめに……
気まぐれにお尻を触っただけじゃありませんか
母親も…怒るなら 僕のことを怒ればいいものを
塚本さんを淫乱よばわりして……
少し淫乱な気持ちがなかったわけでもないんですよ
黙ってお尻を触らせていたんですから
もし奥様に見咎(みとが)められずに康男ぼっちゃんにもその気があったら……


いや 僕にはとても
塚本さんを押し倒し
どうこうする力や
経験はなかった…

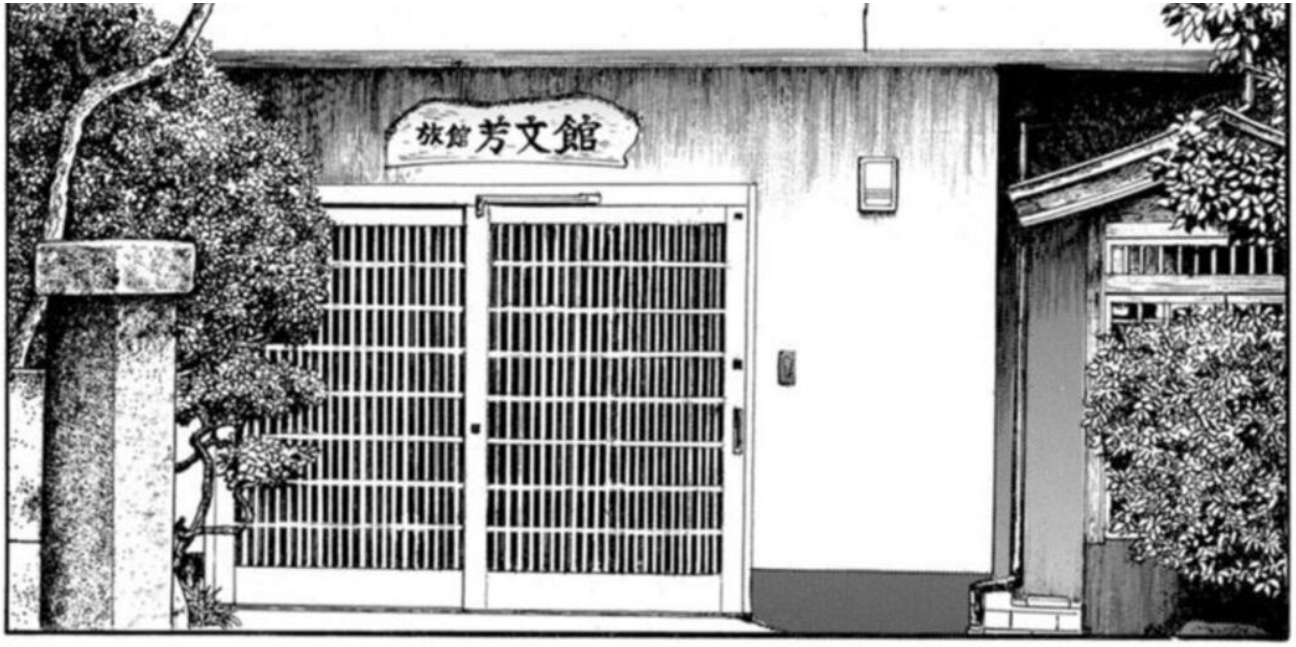

逆に私が
押し倒して
康男ぼっちゃんを
自分のものにして
いたかも


今夜
そんな夢を
見てしまいそう
だね


夢だけ
ですか…？
ここには見咎める
人はいませんよ




今はどう
なんですか？
どうこうする力や
経験は……
あっ あの時と
変わりは
ないさ
情けないが
塚本さん次第
だよ
下の名前を
忘れてしまった
わけではないで
しょ？
そんな呼ばれ方じゃ
私…その気に
なりませんよ
かず子……
近くに
どこか
休める所は
ないかな
康男
ぼっちゃん


旅館芳文館


大丈夫ですか？
ああ だいぶ楽になったよ
ズボンを脱げばもっと楽に…


かず子には以前もよくこんなふうにしてもらっていたね


康男
ぽっちゃんの
具合が悪く
なければ
前とは違う
ことをして
あげられるん
ですけど
もう具合は
よくなったと
言ったじゃ
ないか…
本当ですか？
本当だよ！
なんだったら
腕立てふせでも
やってみせよう
か
わかっていますよ
少し じらした
だけですから


んっ
あっ
ああ
かっ かず子
ああ


ああ…
康男ぽっちゃん
こんなに大き
かったなんて…
思いもしません
でした


とても きれい…
男の人のモノが
こんなに愛しい
だなんて……




ああ…
かず子


気持ち
いいですか？
康男ぼっちゃんが
してほしいこと
なら私なんでも…




か…かず子も
裸になって
おくれよ


汗まみれですよ
いいんですか…
お風呂の後でなくて


旅館
せっけんの匂い
なんか どうでも…
かず子の生身の
匂いを感じたいよ


ああ…
康男
ぼっちゃん


んっ
ふう
はっ
ああ…


ああ
康男ぼっちゃん


言ってみようかと
何度も思ったよ
かず子のここを
見せてくれないかって


言って下されば
かず子は何でも
言う通りに
しましたのに


あっ


こんなこと…
こんなこと
したかったよ


ああ 気持ちいい…
とっ とても…感じる


ああ～～～
康男ぼっちゃん
旅館 芙


ここです
このまま
膣中へ


ああ…入ったね
かず子の膣中に
僕のモノ……
ああ……
ぼっ ぼっちゃん


あっ


あっ
あっ
あっ
かっ かず子
きて…いつでも
ぽっちゃん
ああ～～～


どこかに二人のための部屋を借りようか
いけませんよその場の思いつきでそんなこと言っちゃ
かず子を妾にでもするおつもりですか？
できれば妻にしたいと思っているよ
そんなこと叶うはずもない夢みたいな話ですよ


でも夢みていたら
こんなことも
現実になったよ


康男ぼっちゃんは
優しすぎるん
ですよ


遊びで
構わないじゃ
ありませんか


それで
いいのかい
かず子は…


ええ
……
だって


かず子は
淫乱ですもの
かず子…
ああ……
ぼっちゃん

欲に溺れる人妻
～若い欲に蜜をこぼして～

第４話




ふっ
はっ
もう
そんなもので
いいんじゃないの？
英次くん
ご苦労さま


落とし穴よ
でも…この穴なんのために？
時々 お便所を覗きに来るおかしな奴がいるのよ
ほらここの小窓から
そっ そうなの…


だから
この落とし穴で
覗きの犯人を
捕まえてやろう
と思って
たぶん 近所の
人だろうけど


英次くん
誰か心当たり
ないかしら？
さっ
さあ…
全然……
……そう

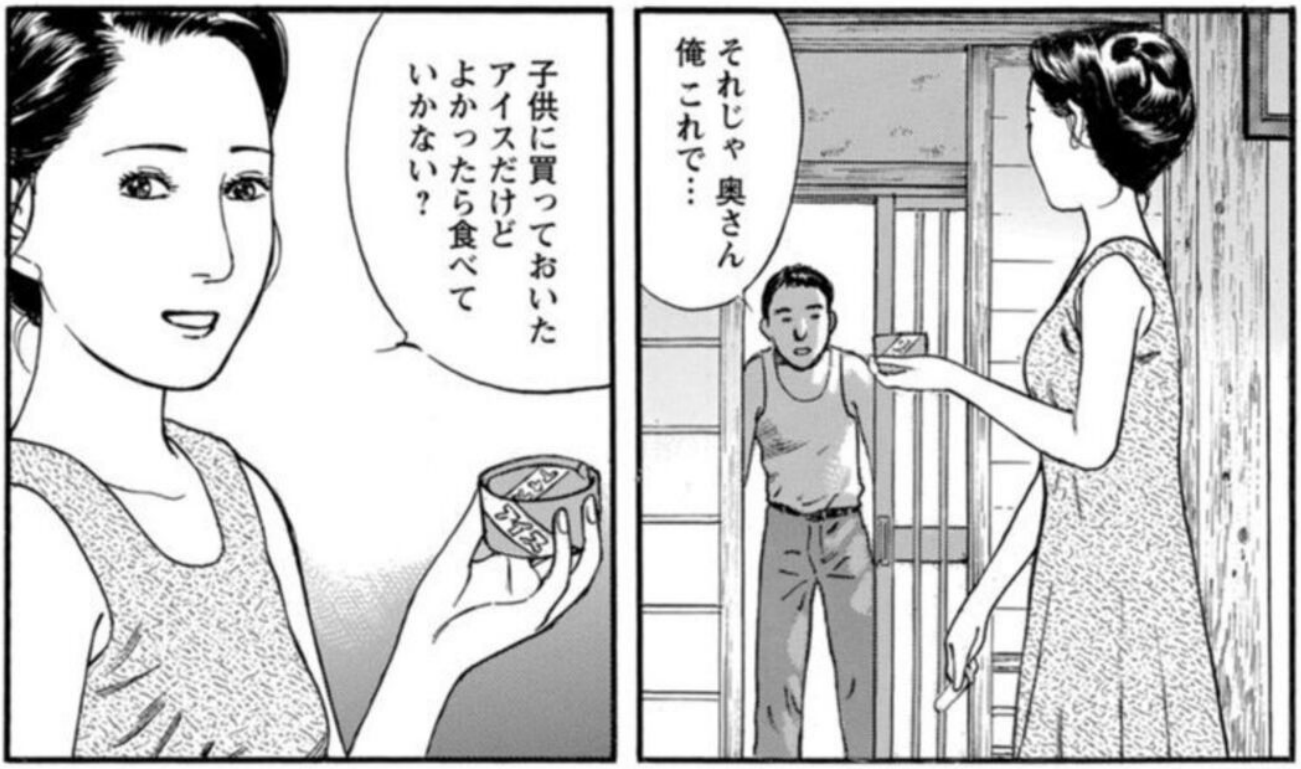

それじゃ
俺
これで…
ちょっと
待って…

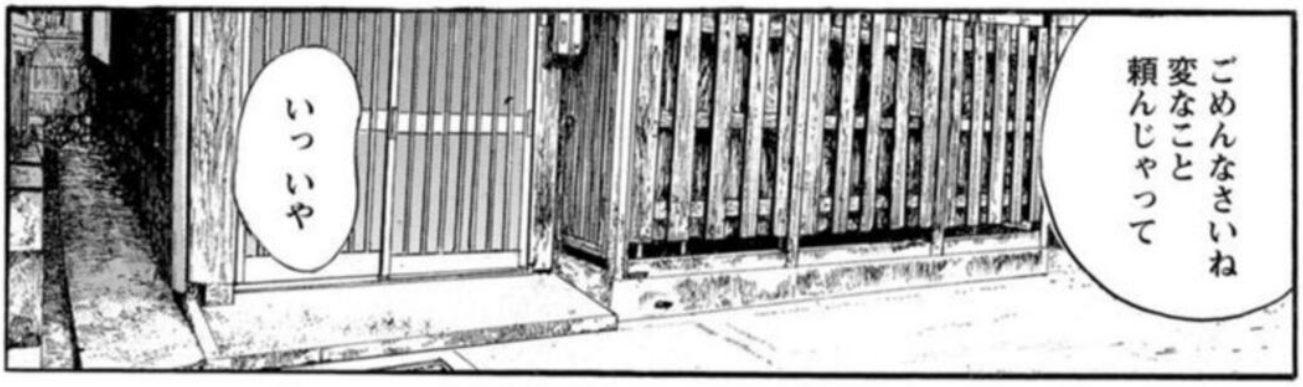

顔や手についた
汗と泥を
落としてから
いったら？


それと
ここに穴を掘ったのは
誰にも内緒にして
おいてもらいたいの




バシャ
バシャ


それじゃ 奥さん
俺 これで…
子供に買っておいた
アイスだけど
よかったら食べて
いかない？


ごめんなさいね
変なこと
頼んじゃって
いっいや


それにしても
お便所なんか覗いて
何が楽しいの
かしらね


どこの誰だか
知らないけれど
あんな
お便所の小窓を
覗き込んでる
自分の姿…
想像したら
恥ずかしくなると
思うんだけど…
英次くんも
覗いてみたくなる
気持ちあるのかしら？
いっ いや…
そんな…俺…


そうよね
みっともない
ものね


いっいや…
あっ…
どっどうかな


なら
女がお便所に
しゃがんでるとこ
少しは興味が
あったりするの？


なっ なんて
いうか…あっ あの
女の人のいろんなことに
きょ 興味がないわけ
じゃないけど


ごめんなさい


おっ 奥さんの
お尻とか見たくて
おっ 俺……


どうかしてました
反省してます
もうしません


すみません
勘弁して
下さい


覗いてみて
どうだった…？


私がオシッコ
してるとこを
見て 興奮
したの…？


いいからこの際
話してみなさいよ
私…みっともない姿を
何度も見られてるん
だから どう興奮
したのか聞いて
みたいわ


みっともない
だなんて…
奥さんの真っ白で
きれいなお尻が
見えただけで
おっ 俺…もう
見えたのは
お尻だけ…？


真っ白なお尻から
キラキラ光る
雫のような…


そっ
それだけで
もう…ほんとに
あっちのほうを
見たいと思った
けど…そ それは


あっちのほうって
……この辺り？


正直者は
得をしなくちゃ
いけないわよね
近頃は
うちの主人
触れもしない
んだけど
そんなに
見たがってたなんて


もっと近くで
見たらどう…？
はっ
はっ


初めて見るには
あんまりきれいな
ものじゃ ないかも
しれないけど…
はっ
はっ


きれいです…ほんとに
もっ もうどうしていいか…おっ 俺
はっ ふっ
あっ
はっ
はっ

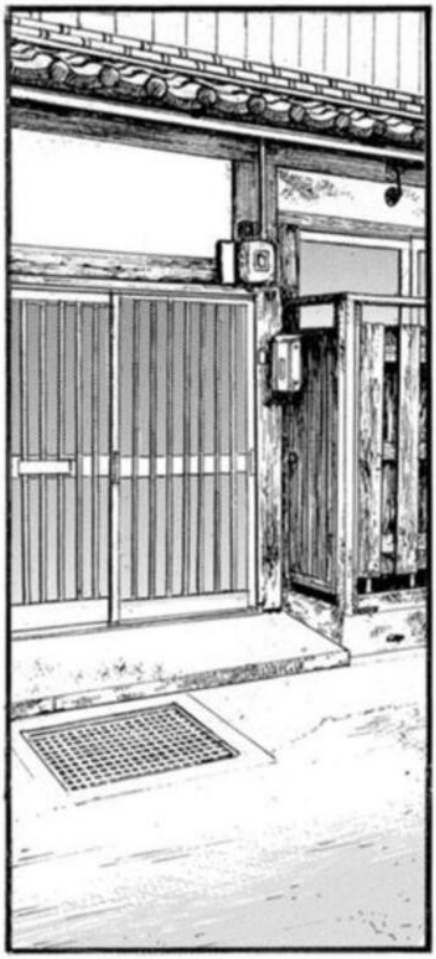

あっ
はっ


あっ


ああ
英次くん


すっ すごい
大きい
ああ〜〜〜


あっ
あっ




ああ～～～


じゃあ…俺
…これで

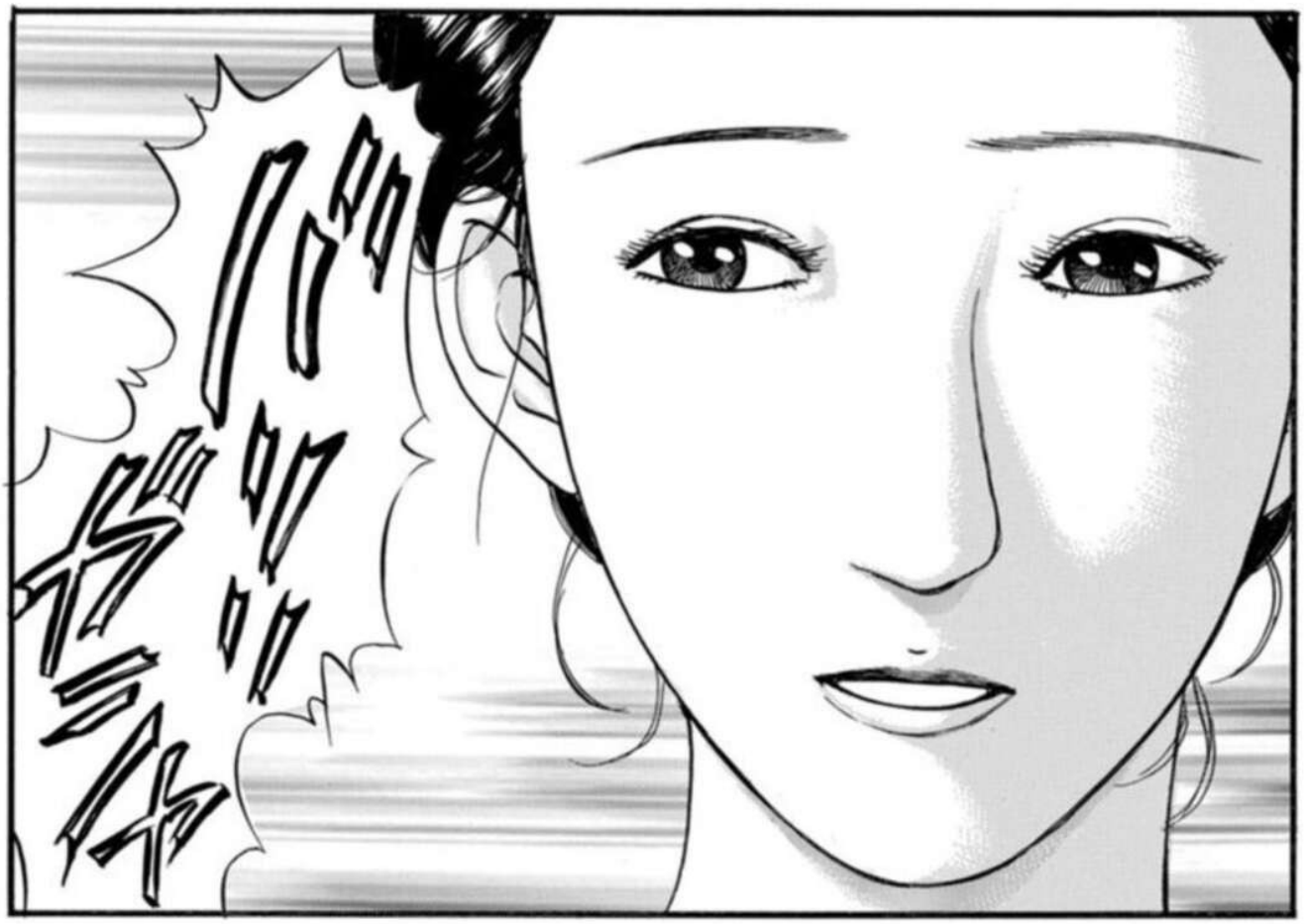

ごっ
ごめんなさいって
いうか…ありがとう
っていうか…その…


もう
これっきりよ
帰りなさい

それじゃあ


ガチャ



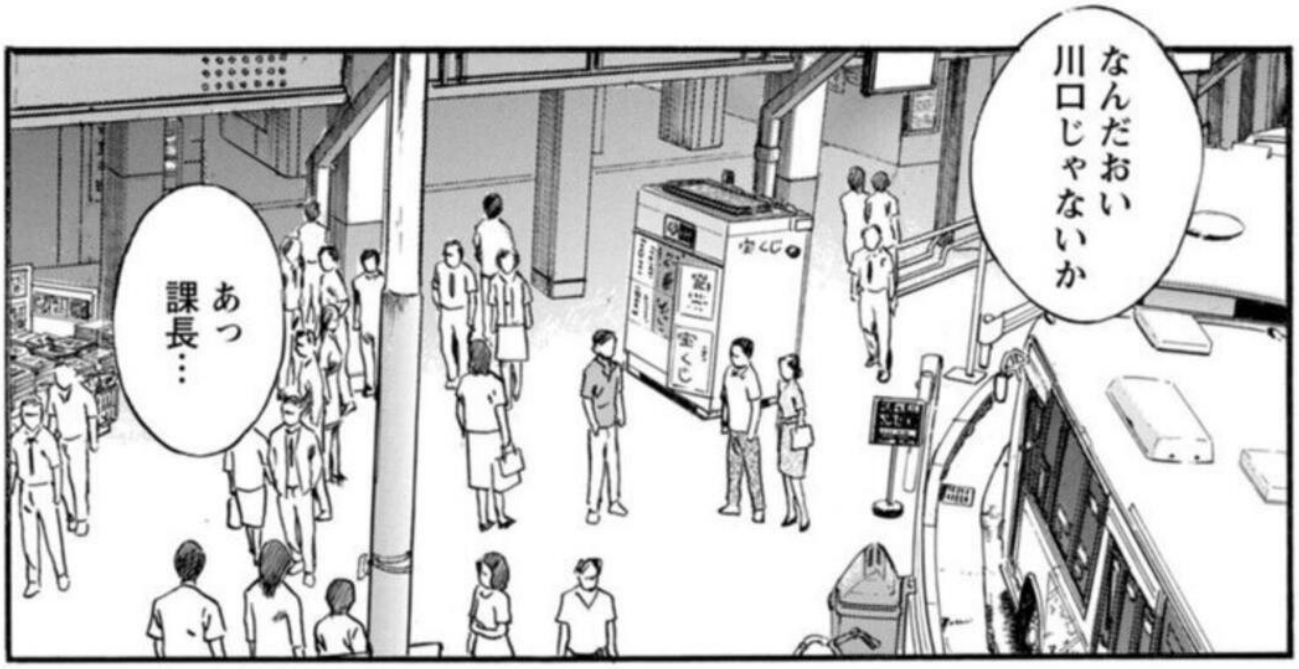



あだだ…
わっ
忘れてた…
ふふっ
これっきりって
言ったのに…
アアア
アアア

欲に溺れる人妻
～若い欲に蜜をこぼして～

第５話




なんだおい
川口じゃないか
あっ
課長…


ご夫婦で
お出かけ
ですか？


たまには女房孝行で
買い物にでも
付き合ってやろうか
と思ってな
いばりくさった
亭主というのも
近頃 流行(はや)らん
だろ

それは
仲がよくて
うらやましい
ですね

お前のほうこそ
誰かと待ち合わせ
か……？

いっいえ
ひとりでちょっと
ブラブラ……

寂しい奴だな
なんだったら
一緒に昼メシでも
どうだ？

いえいえ
ご夫婦 水入らずの
ところをお邪魔
するわけには

かまうもんか

ご迷惑よ…
あなた

休日に上司と
食事なんて

いいじゃないか
ここで
会ったのも
何かの縁だ

お誘いはありがたい
んですけど

今日は
ちょっと…


すみません
僕…これで
失礼します
まったく
もう
2
1
B


キャンペーン開催中
ギフトセンター


どれも似たような
もんだろ
選んでる時間が
無駄だよ


おいおい
茶碗なんか見て
どうするんだ
使ってない食器なんか
家にいくらでも
あるだろうが


なんだよ
見て歩くばかりで
結局 何も
買わないのか


ラーメン
二つ
それと
生ビール


しかしなんだな
女の買い物ってのは
締まりがないよ
ダラダラと…
BEER
会社では部下に
よく話をするんだ
迷うな！
即断即決ってな
何かあれば
この俺が前面に
出てやるから
思い切って
やれと
さっき街で会った
川口なんてのは
しょっちゅう俺に
怒鳴られてるよ
根性がないんだよ
仕事をやりとげる
という……
ラーメンは
まだかい
遅いよ






あっ…
川口さん

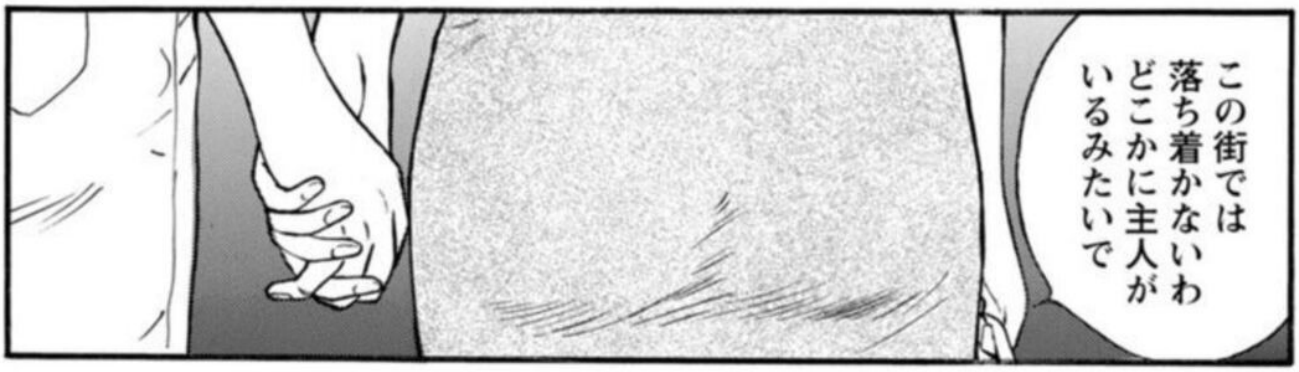

あとを
つけちゃい
ました

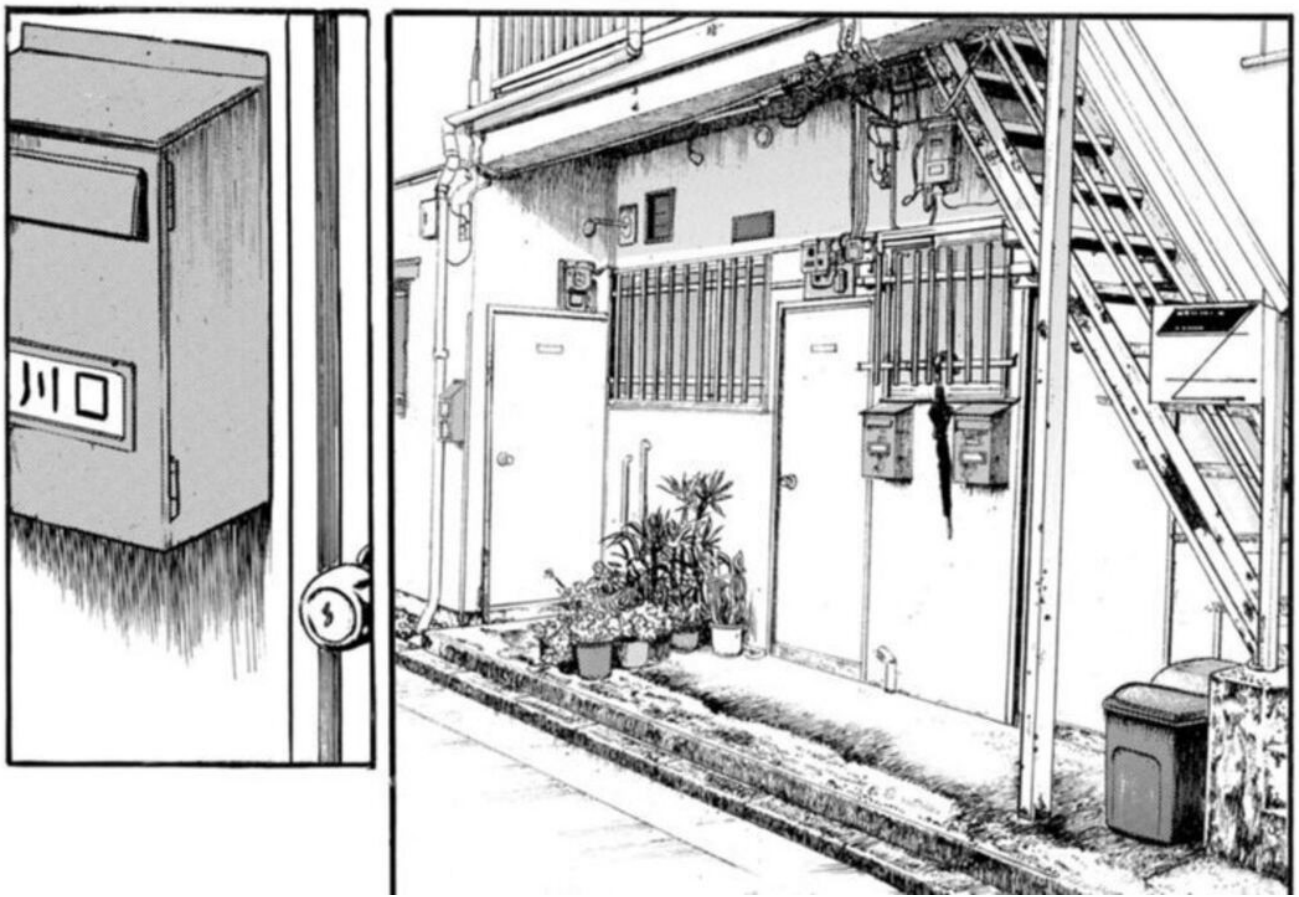

奥さん


ごめんなさい
川口さんと
約束していたのに
主人が突然 買い物に
付き合ってやるとか
言いだして
それで結局
自分は寄る所が
あるから先に
帰れって言うん
です
どこへ寄るとも
帰りは何時とも
言わないで


よかったですよ
何はともあれ
こうして奥さんと
二度目のデートが
できるんです
から


ありがとう…
帰らずについてきてくれて
どこかでお茶でも


この街では落ち着かないわどこかに主人がいるみたいで


川口




いいんですか？
…このまま
はっ
はっ

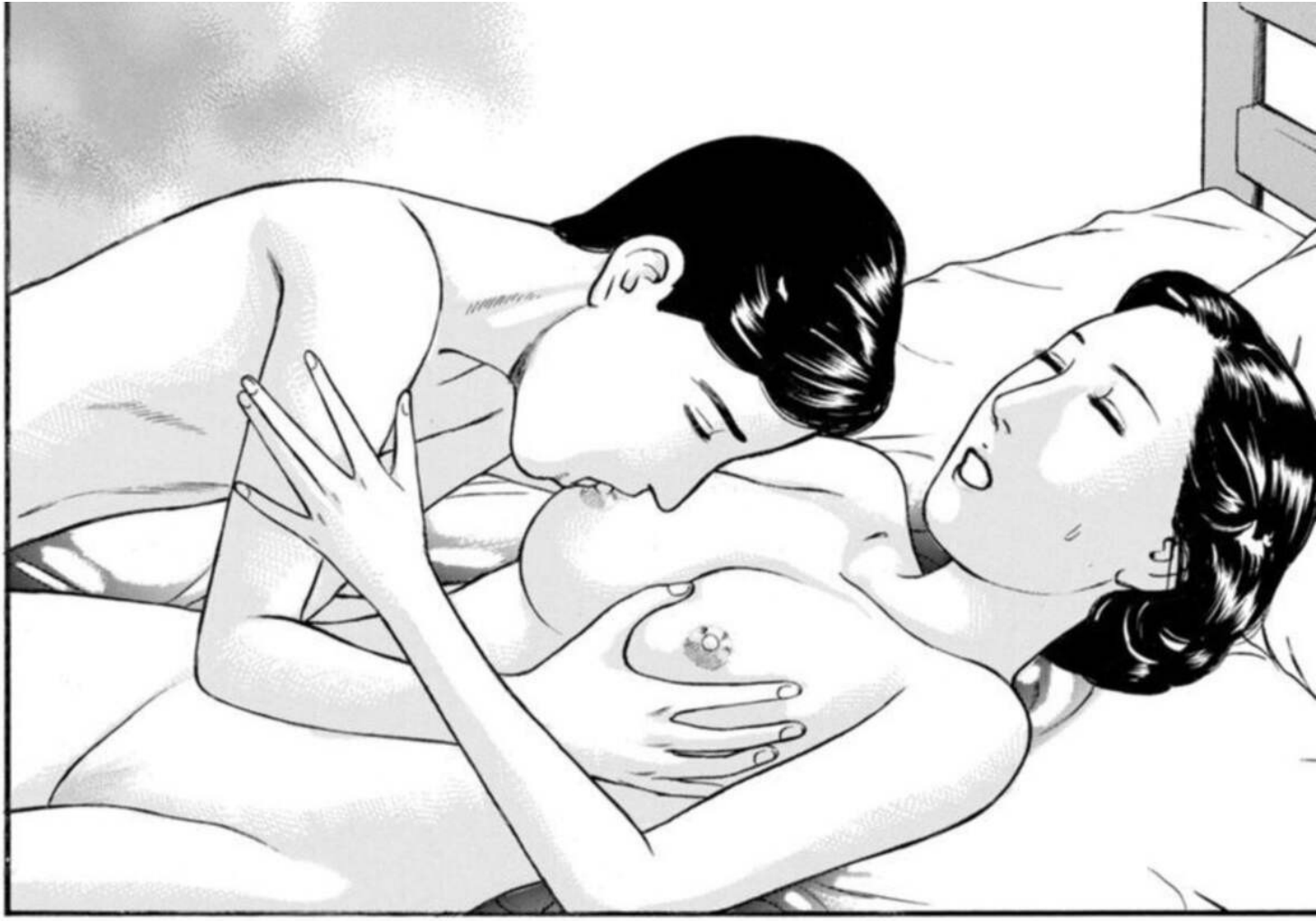

私のほうから
川口さんの部屋へ
行きたいと
言ったんですから
はっ
はっ
あっ


だっ だめ
そんなところ
突然 触(さわ)られ
たら……


溶けちゃいそう
ですよ…僕の指先
ほら 奥さんの
中に引き込まれて
いくように


もう だめ
あっ
ああ


すっ 好きにして
…なんて 男の人に
言ったことは
ないけど
…けど？
メチャメチャに
して……
お願い




ああ……
きっ 気持ちいい


そっ そこ
もっとお願い
しっ 舌で
されるの
すっ 好き…
はっ
ああ


あっ


奥さんの中
すごく熱い


ああ
…すごい
かっ 感じる


うっ 動いて
もっと…


はっ
あっ


ああ
いきそう


いっいく
いっちゃう
ぼっ 僕も…
あっ
ああっ


私…もう
そろそろ


ああ

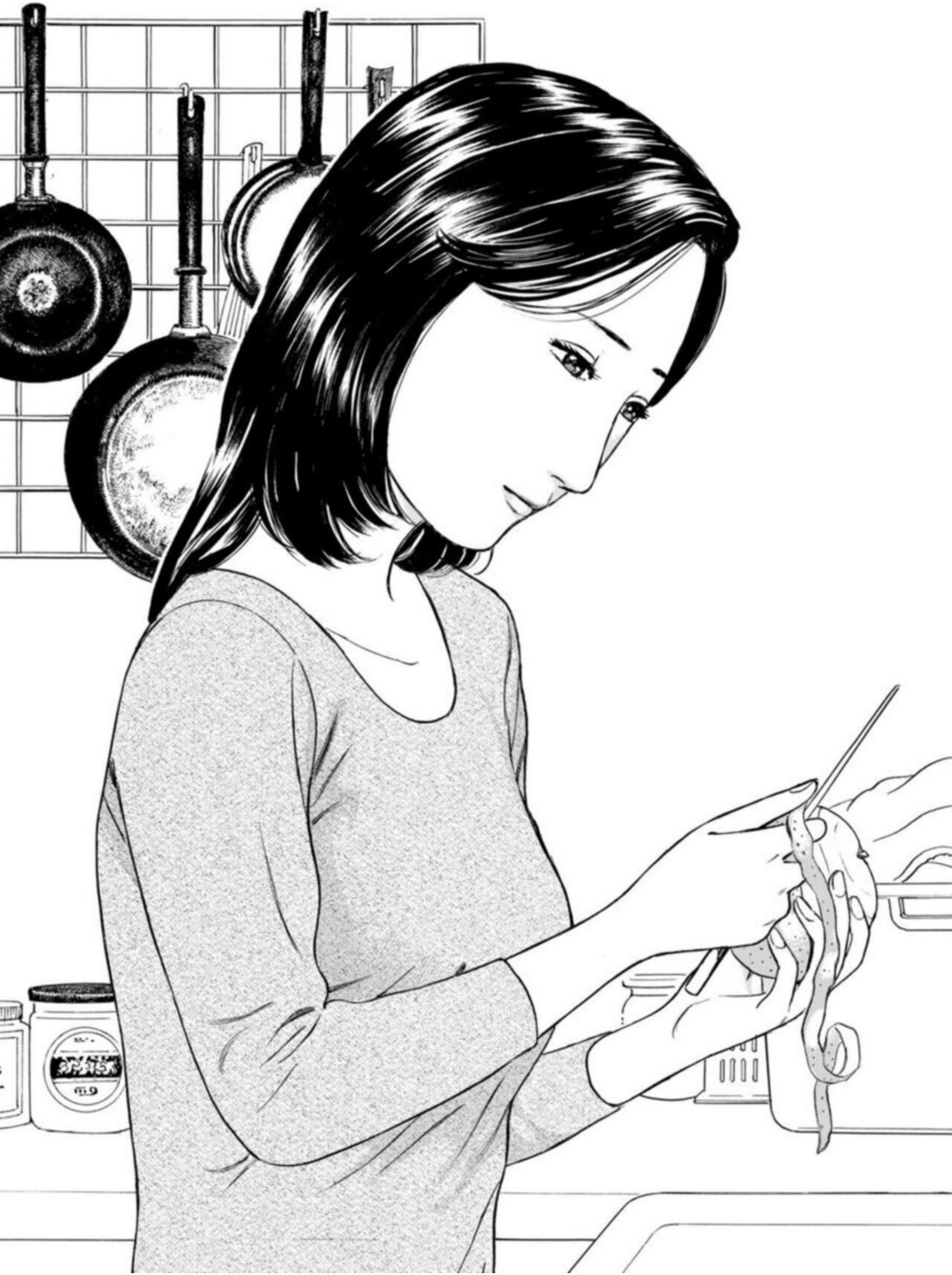

そうですね
もう暗くなって
しまいますから


奥さん 無断で
外泊を
したことは…？
まさか…
そんなこと
一度も……
冒険をして
みるつもりは？
だめよ
あっ
焦らずに…
波風を
たてないように


ひっそりと…
誰にも
知られずに
二人の時間を
つくって…
いかなくては…

欲に溺れる人妻
～若い欲に蜜をこぼして～

第６話




ああ
照子義姉さん


文彦さん遅いんで
迎えに来たわ
道に迷っているんじゃ
ないか心配になって…


何度か歩いた
道だから…


だけど手みやげが
必要かなと思って
探し歩いていたら
つい……
そんな
気を使わないで


果物を
買ってきたけど
よかったかな
ありがとう
うれしいわ


元気
そうだね

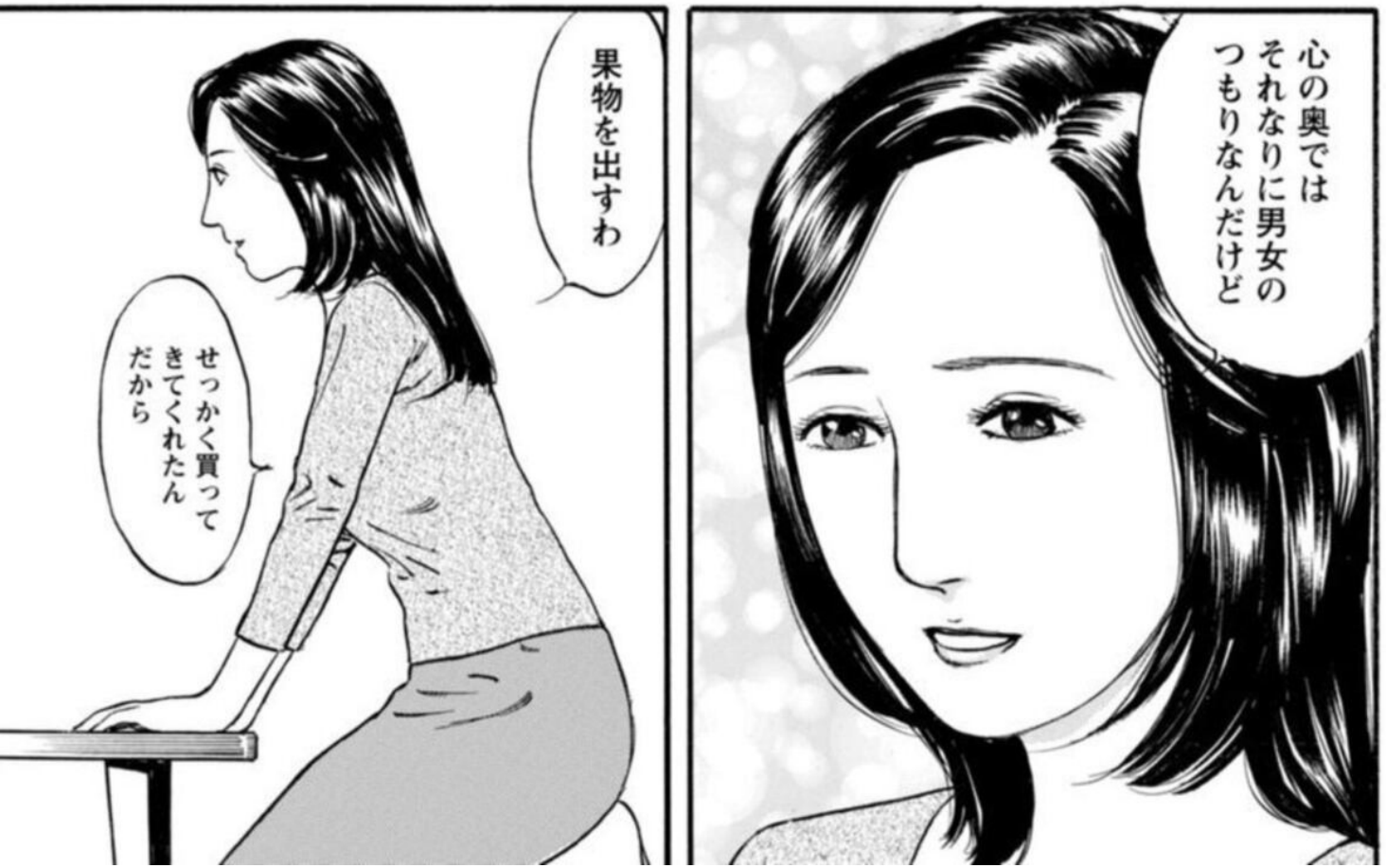

そんな久しぶり
みたいな
言い方…
先週 家で
会ったばかり
じゃない


照子義姉さん
再婚するって
聞いたけど
えっ…

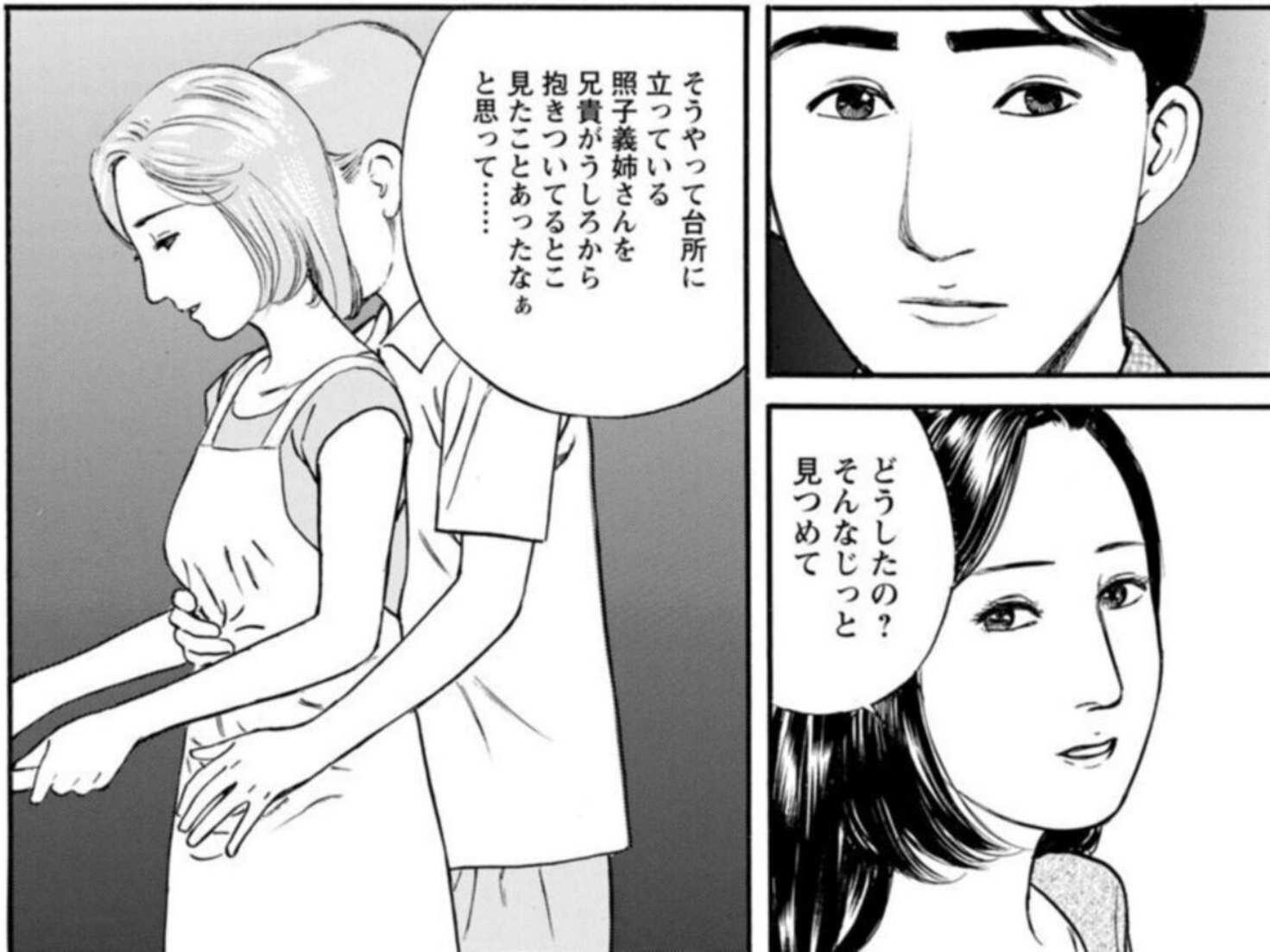

誰から聞いたの？
先週…父さんから
兄貴が亡くなってけっこう経つからそんな話が出てきてもおかしくはないと思ったけど……
お義父さんから好きな人がいるならもうそろそろ再婚を考えてもいいんじゃないかと言われて
〝そうですね〟って答えただけ
父さんの早合点か
だけど好きな人がいるっていうのは案外当たっているかも


再婚したら
照子義姉さんと
縁遠くなるだろうと
思ったから こうして
会いに来たんだけど
そう……


お別れって…それ
それなりの男女の
間のことじゃない
お別れでも
言いに？


果物を出すわ
せっかく買って
きてくれたん
だから
心の奥では
それなりに男女の
つもりなんだけど


ゆっくりしていけるんでしょ
夕食は外で食べましょうか
うちの人とよく行った洋食屋さんが近くにあるから


どうしたの？そんなじっと見つめて
そうやって台所に立っている照子義姉さんを兄貴がうしろから抱きついてるとこ見たことあったなぁと思って……

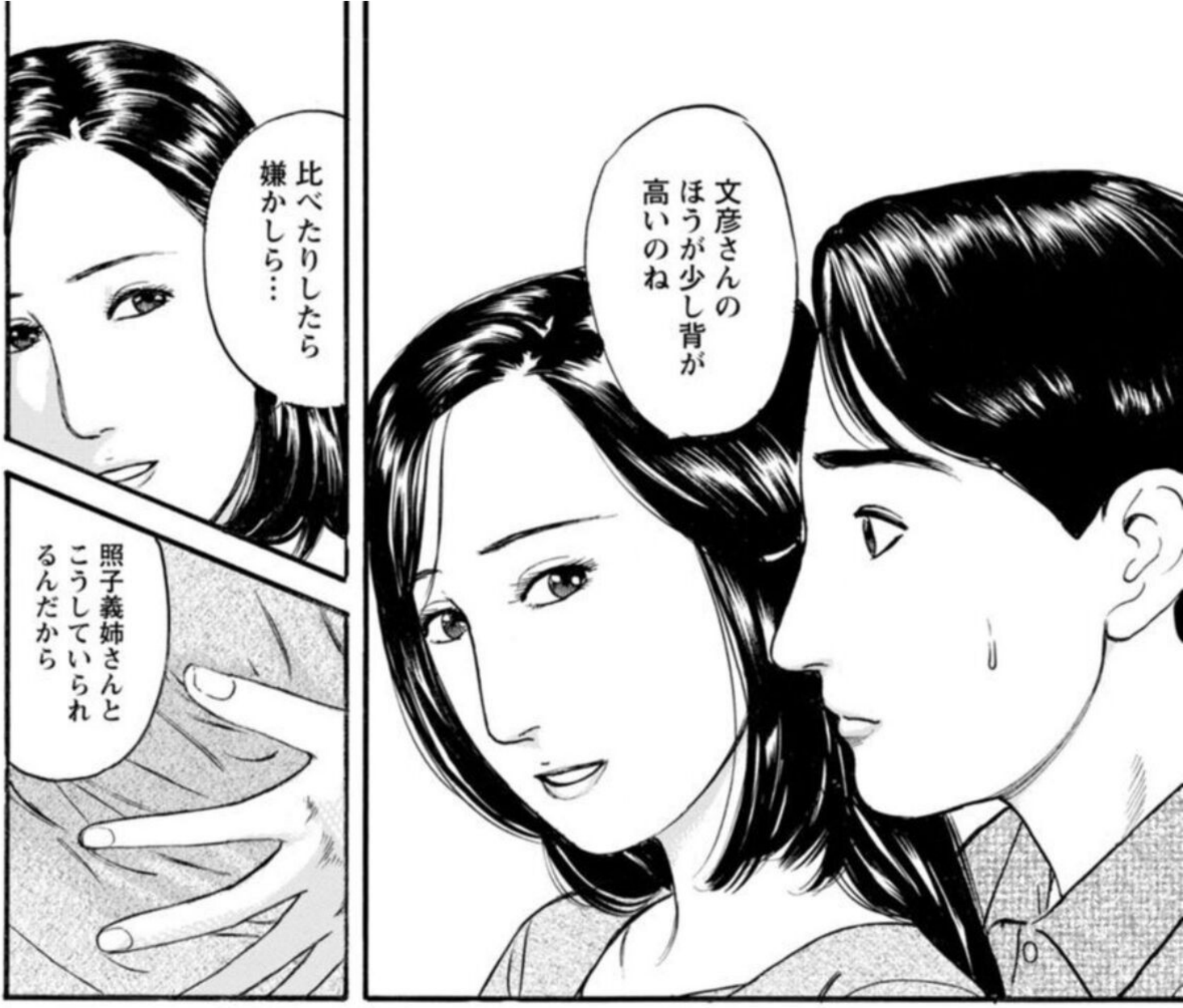

台所に
立っている女は
そそるんですって
文彦さんも
そう思う…？


なんとなくは
思うけど 俺の場合
そそられても…
それで終わり
だから


じゃあ…
同じように
してみれば？


背中に人肌を
感じるの…
好きよ




文彦さんのほうが少し背が高いのね
比べたりしたら嫌かしら…
照子義姉さんとこうしていられるんだから


嫌なことなんて何ひとつ…


はっ
あっ




ふっ
んっ


はっ
あっ


俺ずっと
照子義姉さん
のこと…


やめましょ
それ以上
話すのは


もっ もう
ここまで


うっ うん


ああ




お願い
何も言わずに
…ただ
こっこのまま


照子
義姉さん


はっ
ああっ

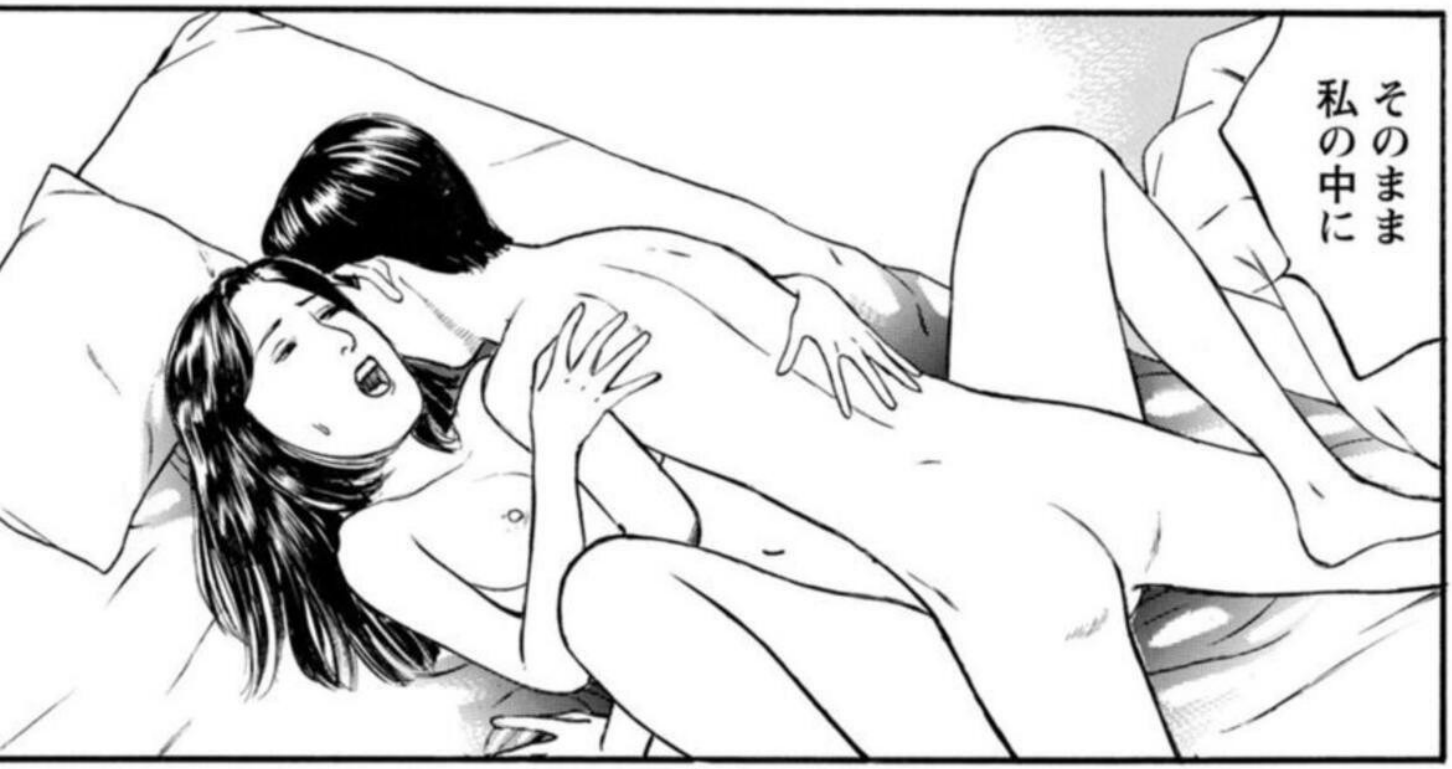



はっ
はっ
あっ
はっ
あっ


すっ すごいよ
ねっ 義姉さん
俺…こんなに
私も…感じる
たっ たまらない

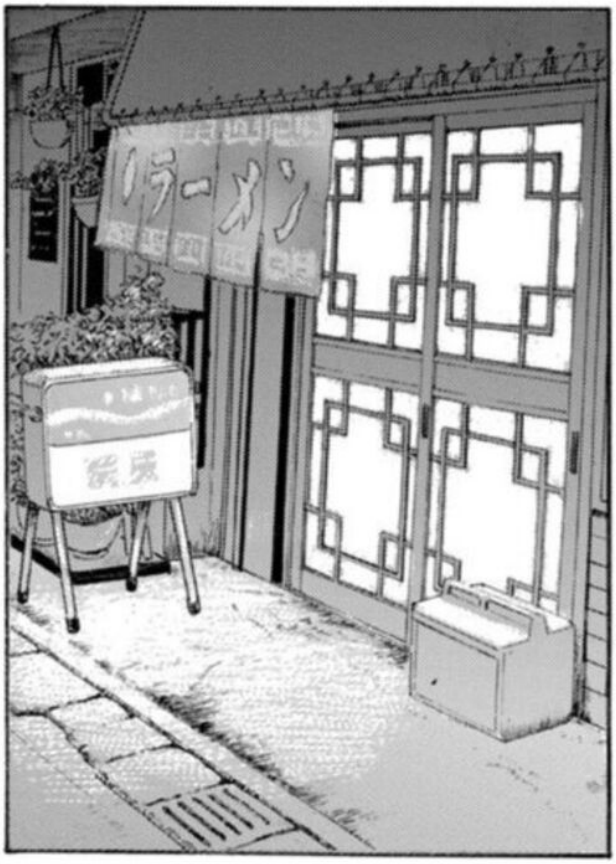

はっ
あっ


いいのよ
きて！


そのまま
私の中に


あっ
ああ～～～




ラーメン

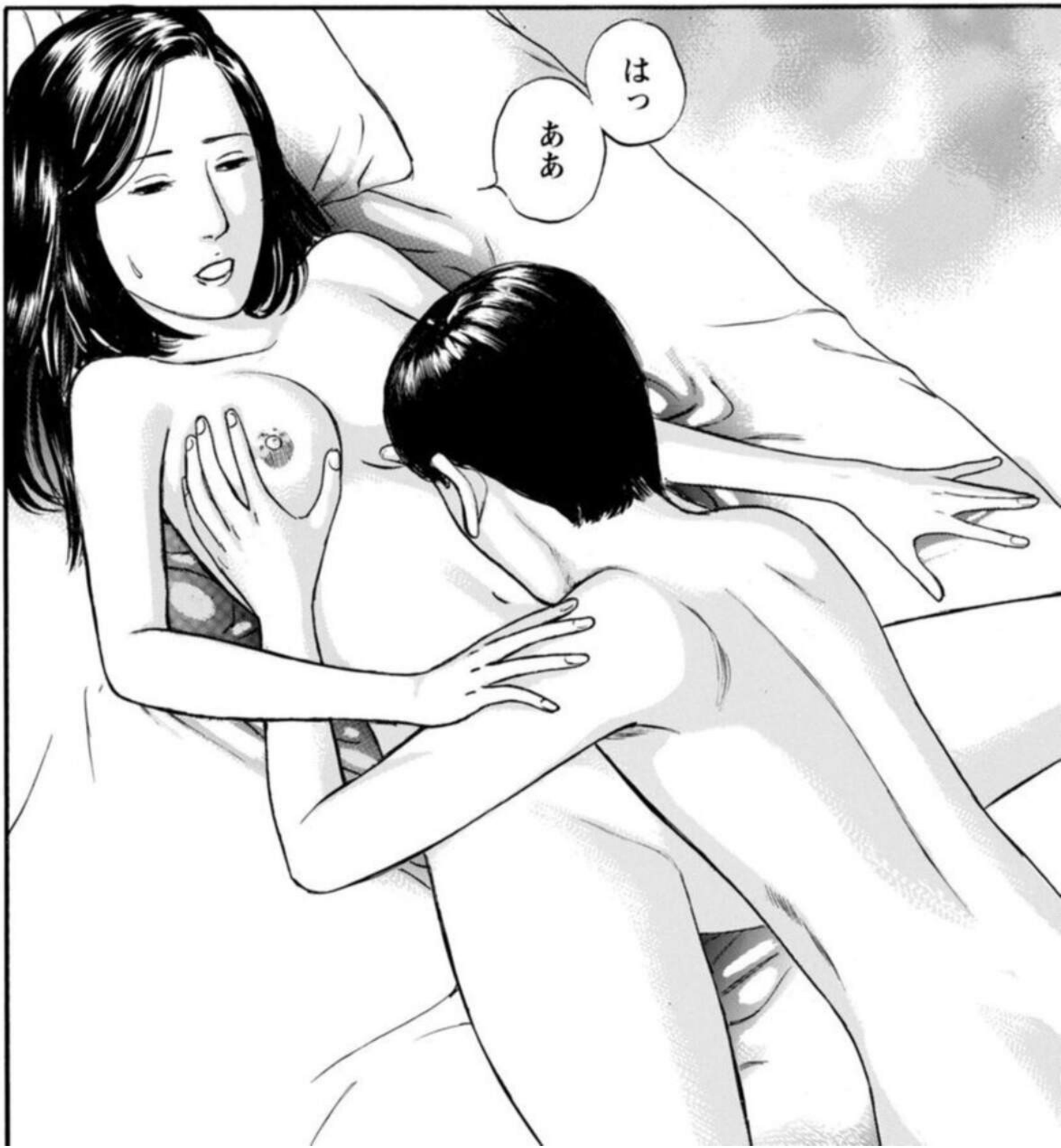

洋食屋さんに
行くつもりで
いたのにね


兄貴と
行っていた店
だと思い出話に
なってしまうから


知らない間に
私…あの人のこと
話しているのかしら


いや…照子さん
じゃなく
俺のほうが…
義姉さん…て
呼ぶのは
やめたの？
だって…
もう…
ねえ
帰ったら
また
しましょうね




はっ
ああ


あっ
だっ だめ
そんなこと
よく見ていい？
照子さんの
ここ


照子
いいだろ
見せてよ


ええ
あなた
どうぞ
見て




好きなように
私の体も…心も…
全部 あなたの
ものだから
ああ

欲に溺れる人妻～
若い欲に蜜をこぼして～
【合冊版】
①

鶴永いくお

© 鶴永いくお／秋水社ORIGINAL